

学校教育目標 「未来をひらく くじらっこ～やさしく かしく たくましく」

学校報



南 港



R 7. 6. 1 No. 2

〒010-0511

男鹿市船川港船川字漆畑36番地1

男鹿市立船川第一小学校

TEL 0185-24-3231

FAX 0185-24-3232

E-mail : funaichi@namahage.ne.jp

<https://edu.city.oga.akita.jp/funaichi-es/>

創立 明治8(1875)年2月12日

絶好調のシン・くじらっこ パワー全開 !

校長 松田 万寿雄

心配していたお天気でしたが、子どもたちの願いが届き、無事に創立150周年記念運動会を開催することができました。

今年の運動会は、節目の年にふさわしい「シン・くじらっこ輝け126の笑顔」をスローガンに掲げ、児童一人一人が自分はもちろんのこと、チームのため、学校のため、地域みんなのために全力で競技に取り組みました。各組のパフォーマンス、徒競走やリレー、親子競技等々、どの場面においても、子どもたちの真剣なまなざし、仲間と力を合わせる姿、応援する姿、友達の頑張りを讃える姿などがとても印象的でした。

この姿は、150年というこれまでの伝統を受け継ぐとともに、これからの未来を切り拓いていこうとする気概を感じさせてくれました。

当日は、たくさんのご来賓の方々のご臨席を賜り、応援に来てくださったお家の方々、地域の方々とともに楽しい時間を過ごすことができました。皆様の温かいご声援が何よりの大きな力の源となりました。皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

今日のこの経験を胸に、これからも「未来をひらく くじらっこ」として、子ども一人一人が大きく成長してくれることを期待しています。



1年「ダンス玉入れ」



2年「走り抜け!フラフープ競走」



3年「100M徒競走」



4年「スマイル宅配便」



5年「学年色別リレー」



6年「爆走!爆笑!親子コンビネーションリレー」

元気いっぱい 笑顔いっぱい 1年生おめでとう集会

5月8日に「1年生おめでとう集会」が行われました。1年生の子どもたちにとっては入学して1か月ほどが過ぎ、少しだけ学校生活に慣れてきたころの集会となりました。1年生の入場や自己紹介の場面では、2年生以上の子どもたちが温かいまなざしで1年生を見る姿が印象的でした。全校で行ったじゃんけんゲームは大変盛り上がりしました。6年生は最高学年として集会を上手に進めることができました。下級生のよいお手本になりました。この日の集会では、子どもたちの元気いっぱいの姿と満足感でいっぱいの笑顔を見ることができました。



今年度の学校運営協議会委員、PTA役員の方々を紹介します。

【令和7年度学校運営協議会】敬称略

役 職	名 前	所 属 等
会 長	〇〇 〇〇	同窓会代表
副会長	〇〇 〇〇	地域コーディネーター
副会長	〇〇 〇〇	保護者代表
委 員	〇〇 〇〇	地域代表
委 員	〇〇 〇〇	地域代表
委 員	〇〇 〇〇	地域代表
委 員	〇〇 〇〇	地域代表
委 員	〇 〇〇〇	船川港公民館長
委 員	〇〇 〇	男鹿中コミュニティセンター長
委 員	〇〇 〇〇	椿コミュニティセンター長
委 員	〇〇 〇〇	北浦コミュニティセンター長
委 員	〇〇 〇〇	戸賀コミュニティセンター長
委 員	〇〇〇〇〇	保護者代表

4月28日(月)に第1回学校運営協議会を行いました。この会では、役員選出と私の方から今年度の学校経営方針の説明をさせていただきました。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

【令和7年度PTA役員】敬称略

役 職	名 前	所 属
会 長	〇〇 〇〇 (4年〇〇)	総務
副 会 長	〇 〇〇 (5年〇〇)	
副 会 長	〇〇 〇〇 (3年〇〇)	
副 会 長	〇〇〇〇〇 (5年〇〇)	
副 会 長	〇〇 〇〇 (6年〇〇)	校外生活指導
専門部長	〇〇 〇〇 (4年〇〇〇)	
専門部長	〇〇〇〇〇 (6年〇〇)	教育広報
専門部長	〇〇 〇〇 (3年〇〇)	
専門部長	〇〇〇〇〇 (4年〇〇)	保健体育
会計監査	〇〇〇〇〇 (5年〇〇)	
会計監査	〇〇〇〇〇 (3年〇〇)	校外生活指導

4月21日(月)、PTA 授業参観、PTA 総会、学級懇談、専門部会、常任委員会が行われました。子どもたちの健全な成長と、本校教育の発展のために、ご支援・ご協力をお願いいたします。



くじらっこの活躍



☆第17回秋田県空手道選抜大会

【小学生女子2年生個人組手】 第3位 3年 〇 〇〇〇

☆第52回全県選抜防犯少年柔道大会

【小学生の部】 優勝 天王スポ少(6年 〇〇 〇)

「境界(さかい)について思うこと」

北陽小学校との統合の準備が始まった頃から男鹿市の地図を眺める回数が増えました。そして4月、船川第一小学校の学区にひかれていた線が2本から1本になりました。境とする線が1本消えたわけです。これは何を意味するのか考えました。そのとき、20年以上も前になるのですが、その当時「境界研究」に関する文献に目を通したことがあったことを思い出しました。「地域社会とは何ぞや」という疑問から「境界研究」にまで手を広げてしまい苦労したことを覚えています。

境界というのは、その境界があるということにより、住民に強い他者意識と、それに連なる地域意識を形成します。その境界(さかい)について論じた研究者が多数いますが、その中からいくつか紹介いたします。

原田敏明氏という研究者は、「村境は村の外との区別をつけるところであり、しかもそれは内から外に区別をつけるところである。したがって地図上の境界ではない。もっと社会的なものであり、その内に存する社会を中心にし、その根拠をなすものである。」と述べています。また、鳥越皓之氏は「部落、町内には地理的境界と社会的境界が存在する。」と指摘し、「地理的境界は地図上に図示できるが社会的境界は人々が意識している生活空間の範囲を示すものであって、境界は住民の日常生活空間の範囲を明示し、内部の不浄を外部に追放するための象徴的な施設である。象徴的な境界であってみれば、地理的に明示できる方法で、ぐるりと生活空間を取り囲む必要はない。」とし、境界を線として捉えることに疑問を呈しました。さらに「境界の外に人々が住みはじめ、これら境界外の人たちと、境界内の人たちとの間に、ほとんどの側面において差異が感じられなくなったときに境界が動く」と推定される。」という、境界の流動性を提起しました。のちに鳥越氏は、「村落には『領域』という観念が実存する。」と述べています。これは土地によって結び付いたとされる日本の共同体の特性を表していると言えます。

以上のことから、境界は固定したものではなく、相互の関係の如何によっては動き得るものであり、境界は決して閉鎖的なものではないということが分かります。統合してまだ2か月あまりですが、ともに学校生活を過ごしていくことで、学校や家庭、地域の境界はどのように変化し、どのような共同体が築かれていくのが楽しみです。